

デジタル技術で新たな高齢者支援

アナ： 「市長が語る 2022 三島」第 17 回の今日は、「デジタル技術で新たな高齢者支援」についてお話を伺います。豊岡市長、よろしくお願ひします。

市長： よろしくお願ひします。

アナ： 三島市では、「三島市スマート市役所宣言」に基づき、スマートシティの推進を図るための施策に取り組んでいると伺っていますが、高齢者の方に向けた取組にはどのようなものがありますか。

市長： 三島市では、令和 3 年度に、市民の方が運営する通いの場などで、主に高齢者の方が活動する団体に対しまして、ICT を活用した仲間づくりを支援したり、介護予防に繋がる活動を提案したりするため、「スマホタブレットキャラバン隊」を結成いたしました。

現在は、9 名のキャラバン隊員が市内各地の通いの場に赴き、活動しておりますが、今年度はさらに LINE を使った新たな取り組みを始めました。

アナ： LINE は、多くの方に使われているアプリケーションですので、高齢者の方々にとりましても身近に感じることが出来ますね。

この新たな取り組みの名称は、高齢者の皆さんの笑顔をイメージして名付けられたと伺いました。

市長： はい。本年 4 月から、デジタル技術を使った新たな高齢者支援策として、「みしまスマイル」という LINE アカウントを開設しました。

これは、令和 3 年度に、国がヘルスケア分野の地域課題解決のために行いました、自治体のニーズ等と民間事業者からの提案をマッチングする取り組み、「ガバメントピッチ」に三島市が参加いたしまして、その成果として、民間事業者様と締結しました協定に基づき導入したものでございます。

「みしまスマイル」では、住民同士のコミュニケーションはもちろんのこと、健康チェックやヘルスケアニュースの配信、三島市オリジナルの自宅でも出来る体操動画の配信を行っています。

また、通いの場の参加者の方は、通いの場ごとの専用 QR コードを読み取ることで、簡単にグループトークが開始できるようになっています。

アナ： 通いの場のグループトークは、皆さんどのように利用されているのでしょうか。

市長： これまで個別に連絡を行っていたものが、グループトークによって皆さんに一斉に連絡できるようになったため、大変喜ばれています。

そのほかにも、散歩中に見つけた綺麗な景色や花々の写真を送り合っているグループもあると聞いておりますし、何より、参加者の方のやり取り自体が、ひとつの安否確認にもなろうかと思っております。

将来的には、まだまだ様々な使い方、楽しみ方が考えられると思いますので、皆さんに有効に活用していただき、それぞれの活動をさらに実りあるものにしていただければ幸いです。

アナ：なるほど。

高齢者の方が楽しみながら日常生活の中でスマートフォンなどを活用することでITリテラシーの向上に繋がる、そして、グループ内でのやりとりが互いの見守りにもなるとは素晴らしい取り組みですね。

市長：ありがとうございます。

メディア同士が互いにコンテンツを提供し合う「コンテンツシェアリング」による国内唯一のヘルスケアニュースの配信では、良質な記事によって自らの健康意識を高めていただくことができますし、お仲間同士の日頃のコミュニケーションのきっかけにもしていただけるのではないかと思います。

今年度は実証実験として、多くの高齢者の方にご登録、ご活用いただきまして、今後、皆さんのご意見を伺いながら、アップデートを行ってまいります。

まだ「みしまスマイル」のお友達登録をされていない方は、三島市のホームページにQRコードを掲載しておりますので、登録をご検討いただけますと幸いです。

なお、地域包括ケア推進課では、登録のお手伝いもいたしますので、お気軽にお問い合せ、お立ち寄りください。

アナ：「みしまスマイル」を多くの方にご利用いただき、健康寿命の延伸や社会参加をより一層促すことが出来ると良いですね。

豊岡市長、本日はありがとうございました。

市長：ありがとうございました。